

2. (1) 令和3年度 改善意見への対応状況(中間報告)

令和3年度改善意見(令和3年7月1日)	実施状況(中間報告)
<p>(1) 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた補助金審査の適切な対応</p> <p>令和2年度の補助金審査業務で新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に鋭意取り組んできたことは評価できる。新型コロナウイルスの動向は見定めにくいので、令和3年度においても引き続き状況に応じて適切に対応されたい。その際、令和2年度の感染拡大防止対策の経験を最大限に活用されることが望まれる。</p> <p>(2) 「補助金審査の主な着眼点」の周知徹底</p> <p>令和2年度に行われた「補助金審査の主な着眼点」の周知は、補助事業者への注意喚起をもたらし、補助金の適正使用の面等での効果が期待されることから、これを適宜更新し、周知徹底を行われたい。</p>	<p>○ 令和3年度の補助金審査は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、「現地審査期間の最短化」「現地審査人数の最少化」「現地審査中の感染防止対策」の観点から、感染症対策を踏まえた補助金審査実施方針を策定したうえで実施することとした。</p> <p>審査の実施時期については、感染症の状況等を勘案し、12月以降を目途に実施することとしている。</p> <p>なお、令和3年度の補助金審査の実施にあたっては、前年度の感染症対策を踏まえた補助金審査の実施結果を検証したうえで、以下のような取り組みも含めて実施することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地審査後に継続して審議する事項が生じたときは、必要に応じWeb会議システムを活用することとした。 ・ 補助金審査後の事後確認について、リスト化したものを関係者が共有することで、効率的かつ確実に確認することとした。 <p>○ 令和3年度は、「補助金審査の主な着眼点」のさらなる周知徹底を図るため、補助金実務説明会において補助事業者の担当者に説明する時間を設けた。</p> <p>また、内容については、今年度の補助金審査の結果等を踏まえ、必要な場合は見直しをする。</p>

(3) 鉄道助成業務でのデジタル化の可能性の検討

デジタル化の追求は時代の社会的要請でもあり、鉄道助成業務での導入の可能性も問われうるため、補助金審査業務へのITの活用も含めてその可能性を検討されたい。

○ 補助金審査において、現地審査前に確認すべき事項が生じたとき、現地審査後に継続して審議する事項が生じたとき等は、Web会議システムの活用も含め最適な方法で実施することとした。

また、業務で使用しているパソコンが逐次モバイルパソコンに置き換わることから、補助金審査時にモバイル端末を活用し、作業の効率化、業務上必要な情報の確認、職場等と写真・動画等による情報共有等の効率化等を図ることとする。

さらに、補助金審査以外の業務においても、補助事業者等との打合せ・協議、補助金実務説明会等において必要に応じWeb会議システムを活用する。

(2) 令和3年度補助金実務説明会の実施結果

1. 参加対象者

令和3年度に補助金の交付申請をした補助事業者及び関係者

2. 議事

- ① 補助事業の実施に係る基本的な考え方及び留意事項について
- ② 補助金審査の主な着眼点について ※今年度新規
- ③ 補助金審査における指摘事例について

※全体で概ね90分程度

3. 開催形式

『Microsoft Teams』を活用したオンライン形式

4. 開催実績

No	開催日	対象補助金
1	7月13日 午前	鉄道防災・踏切
2	7月13日 午後	技術開発
3	7月20日 午前	駅総合改善・幹線鉄道等活性化
4	7月20日 午後	整備新幹線・地下鉄

5. 来年度以降の開催形式

今年度のオンライン形式での実施状況及び参加者へのアンケートで9割超が『オンライン形式』がよいとしていることから、『オンライン形式』のメリットが『対面形式』を上回っていると考えられるため、新型コロナウイルス感染症の感染状況にかかわらず、来年度以降は『オンライン形式』での開催を基本とする。